婦人衛生雜誌

大正三年五月二十五日發行

第二百九十四號

明治二十二年十二月二十八日第三種郵便物認可（毎月一回

明治二十二年二月二十八日内務省許可　廿五日發行）

婦人衛生雜誌

第二百九十四號目次

大日本婦人衛生會

六月例會通知

來る六月六日（第一土曜日）午後一時より神田區一ツ橋通り共立女子職業學校內に於て本會例會相開き左の講話竝に講談有之候間萬障御繰合せ御來會被下度候

例に依り御婦人に限り御知友御同伴不苦候事

一、衛生講話　醫學博士　遠山椿吉君

一、講談　天野雉彥君

大正三年五月

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも必要の事にして持居等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相部て起り婦人の社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を怠らざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講話演說談話を乞ひ互に招研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす兹に本會旨趣の概略を叙べて廣く江湖の諸姉妹に告げ其贊成を仰ぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿一年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ以て社會全般の幸福を增進するにあり

●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く

●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

●第四條　入會の者は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員證を交付す（交付手數料金十錢なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし

●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす

●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし

●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得

●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戾せず

●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす

●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員三十名、書記若干名

●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選舉し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の人若くは男子に託することあるべし

●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を助け會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し [illegible]

[illegible] の規定に依るものとす●第廿七條　支會 [illegible]

を得●第廿八條　本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其費用 [illegible] り本會に送付すべし支會限りの會員にして報告を請求する者に [illegible] 同じ

●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし [illegible]

第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し [illegible]

條　會員又は會員外の者にして [illegible] 者ある時は本會々長の名を以て謝狀を送り寄贈者の姓名及品目を [illegible] 登錄し尚本會雜誌を以て報告すべし

●第卅二條　會費金は一ヶ年 [illegible] すべし但し地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送付發として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）

●第卅三條　會費は東京府下に限り每月領收人に差出すべし地方會員は總て前金とし振替にて口座番號東京一〇六〇〇番へ本會事務所宛に振出しあるべし

●第卅四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市麴町區富士見町二丁目卅二番地

私立大日本婦人衛生會

（大正三年五月二十五日發行）

講演

學校と家庭との衛生上の連絡

東京醫科大學助教授
醫學士　石原喜久太郎

四月の本會雜誌に去二月私が國家醫學會で演說致しました『小學校の結核豫防』の轉載を致されましたのですが、其本文の内に學校と家庭との連絡を良くする事が學校衛生の進步の爲に必要であると云ふ點を一寸述べて置きましたから茲でそれて就きまして一層具體的に御話申上げ度ふ存じます。

小學校に行く小供を持てゐらつしやる方は皆御存知でありましよう學校から兒童の健康狀態及び疾病の事に關して果してどれだけの通知をして吳れるかを實に我邦の小學校に於ては學校即ち學校醫から家庭に對しての學校衛生上の連絡と云ふものは僅かしかないので、例へば每年の身體檢査の成績が通知簿に記入して來るのが其内の主なるもの位に止つてゐるので之は學校衛生上甚だ遺憾の次第であります。

學校衛生を最も良く勉强してゐる獨逸國民のやり口と其實地の效績とを見て之を我邦のと比較して考へますと云ふと實に雲泥の相違がありまして彼に於ては實健康なる第二の國民を作らんが爲に學校衛生を勉强してゐる、若も今兩國民の兒童が同樣な健康狀態であつて、そして又學校に於て受ける敎育の衛生上の負擔＝と申す意味は兒童が學科の敎授を受ける爲めに精神や身體を勞し其結果身心を害すること＝が同一であると假定して考へますと、彼に於てはあのやうに學校の衛生に盡力して兒童の健康を保護し

吾々に於ては御承知のやうな狀態であるからして、今から十年二十年の後に至らば必ず其結果、卽ち國民健康の狀態に於て著しき相違が現はれて來るものと云つて差支ない、況んや我邦の兒童におきましては漢字を學ばねばならぬからして負擔は彼よりも重くとも輕くはあるまいと考へます、我邦の學校衞生がまだ進まぬのは將來の爲に私は誠に心配に耐えません。

學校衞生を進めますのには決して當局官廳の規則や學校醫の盡力ばかりでは出來ない、現在日本の學校衞生の幼稚な狀態は畢竟世間一般が其事を深くは心配しないと云ふ事が又大關係ある事と考へます。現在の學校衞生を良くして行くには色々の點を改正しなければなりません、規則の改正すべきものもありましようし、學校醫の仕事も改めてゆかねばならぬ事もありましよう、而して家庭と學校との連絡を親密にしてゆく事は確に學校衞生を良くしてゆくに必要缺く可からざる事柄であります。

學校醫は學校衞生機關の最重最要のものでありますが、學校と家庭との衞生上の連絡を良くするに當りては學校醫がそれに對して十分完全に權威信用が無くてはならぬ、卽ち學校から衞生上家庭に通知をする場合に、其通知の內容＝學校醫の意見、注意等＝が家庭に取りて如何にも尤なる事で、理由ある事で、其爲に家庭は直に自分の小供の爲に動くやうにあらねばならぬ家庭が校醫に對して十分に信用を拂ふだけの事實がなくてはならぬのであります。學校醫が如斯權威ある者となる爲には學校醫自身に於て十分に學校衞生に通じなければならぬのです。

右の如く學校醫を權威ある者とするには今後又色々順序方法のある事でありますが、それは又改めて申上げる機會もあらふと信じます。

元來學校醫は決して自分の受持つてゐる學校の兒童の疾病を治療すべき者ではありません、原則としては之を禁じてあります、唯不慮の怪我とか其ほか所謂第一救助と申して必要の迫りし場合に限り醫者＝

校醫で無い」に行くまでの手當に限りて治療的のことをするのを許されてあるのでありますが我邦に於ては事情があつてそう云ふ風に行つてゐないのが多い、是れ我が學校衛生の進まぬ一原因でもあるのです。

茲に述べます學校醫の仕事は全く皆學校衛生の仕事であつて決して治療上の事ではない、學校醫は茲に云ふやうな仕事が本職である、そうないと種々の弊害が起るからであります。

小供が滿六歳になつて小學校に入りました時に學校は校醫をして直に身體檢査をさせます、此時若し兒童が何かの病氣に罹つてゐまして、それはすぐに直さねばならぬとか或は將來の健康上ほつて置けない狀態とか云ふ者を發見すれば學校に於ては豫め一定の型式の印刷物が出來てゐて、それに其病名、それからそれをほつて置いてはいけないと云ふ理由、それから病氣の種類によつては何々の專門醫に兒童を送つて治療を受くべしとの事を記入して保護者に送る、又學校に於ても其控へが取つて置いてある、それから家庭は學校の通知に從つて其小供を治療醫に送つたならば、其事を、學校から來た印刷物の一端に記入してそれを切り離して學校に報告する、又治療醫はやはり學校から保護者を經て來た印刷物に該兒童の病氣の診斷並に自分の行ふ治療法の要點を記入して學校に報告する、ツマリ學校からして保護者に對し、恰も市町村役場が納税の通知をして來るに用ふる、連接した、間を切り離すことの出來る、票見たやうなものを送るのである、是で學校は兒童の疾病に就きて家庭に通知した結果がドウなつたかを知る事が出來る、それから各兒童在校中を通じて健康狀態記入簿を學校が持つてゐて重要の事はそれに記入する、それで小學校を卒業する迄の事が皆わかつて來る、卒業する時には職業の選擇を學校から教へてやる、即ち兒童の體格、及是迄の健健狀態に基きて此兒童は將來尙學問修業差支ないとか、又は坐業に適するとか、大工にはなれぬとかと云つた

やうな注意を與へる。
學校醫が時々學校を視察する時に學校の建物、掃除の清、不淨、其他の有形上の事を注意するのみならず兒童の健康狀態に注意する、教員も注意してゐて異狀あればそれを校醫に通知するが、校醫が兒童に健康上の異狀を發見する時はやはり前述の手續で家庭に注意する 私 は獨逸の或所で次の如き注意をなしてゐたのを見ました、或兒童の頭に虱がタカッテ居た、それで其學校は校醫と連名で印刷した通知書を保護者に發した、曰く是はすぐに驅除しないといけない、うちやつて置くと皮膚が侵されて其所へ毒が付いて濕疹が出來て仲々なほらなくなり困るやうになるからして學校は 速 に其手當をなさるやう保護者に注意申上げる云々、虱などの出來事は良家庭にはない事ですけれども實例として申したのです、又斯ふ云ふ風の通知があつた、或兒童が授業中よく口を明けてゐる、そこで保護者宛に、あなたのお兒さんは口で呼吸をなさる、人は鼻で呼吸をすべきものであるのに口で呼吸をするのは鼻か咽に故障があるので、鼻の奥に鼻茸があるとか增殖物があるとか咽頭‖扁桃腺‖が腫れてゐる爲である、それをうちやつて置くと腦を惡くして學業が進まないとか或はこれ／＼の故障が起つて來るから、學校はあなたに望むに、此お兒さんを耳鼻咽喉科の醫師の所へおやりになつて適當の手當を受けるやうに致され度いと或は又兒童が傳染病に罹つた時なども學校に於て病毒が他の健康なる兒童に傳染せぬやうに適切なる手續を取るのである、
斯樣な色々の例がありますが、學校で・ 云ひ換えますれば學校醫がこんな風に活動が出來るやうになりますれば、學校衞生は大に進歩するわけであります、勿論家庭に置きましても校醫の注意に從ふて自分の兒童の爲に健康を保護して兒童心身の發育を故障なく遂げしめ教育を完全に受けしめねばなりません、我邦でも中以上の家庭ならばそれだけの事は無論やつて行かれる事と考へますするからして、ドウか小學

校の衞生をかう云ふ風に仕組む事に、凡ての家庭が心配してくださる事を願ふのであります。

皆さん能く御氣を付けて御覽なさい、幼稚園や小學校に通つてゐる、小供は隨分カワイソウな事があります、私共は醫者でありますから素人の御方よりは小供の健康及疾病に對して多く又早く注意を致しますが、學校では多人數一緒に居る爲に種々の傳染病が移り易い、卽ち一緒に居る事が傳染の機會を與へるのであります、百日咳や麻疹や、實布垤利亞や其ほかの小供の急性傳染病が少くない、勿論學校でばかり傳染して來るとは限らぬけれども、しかし之は十分に注意すれば、卽ち學校衞生が行き屆けば、それに罹らなくて濟む場合が澤山あるに相違ない、果して然らば罹らなくて濟む病氣に罹つて小供は病苦に難義を致し、親は心痛をして又療治に多くの費用をツカワねばならぬ全快しても其爲に小供の健康を弱められるのであります其位ならばまだよいが重い時は命を失ふに至るのである、急性傳染病のみならず慢性傳染病中で多い結核病の如きものも學校衞生が進めばモット之を少くする事の出來るのは明かであります其事は四月の本誌を御覽になりまして能く私共の意のある所を御酌取りを願ます。

家庭の方々に於ても色々御考を願ひまして、其思付を學校と學校の父兄會へドシ／＼と御持出を願ひ度いものであります、それが學校衞生の進歩を促す事になりまする事と存じます。

學校醫は兒童健康狀態の監視者監督者指揮者であります普通の家庭否な上流の家庭と雖も兒童に對して病氣でない平素の時にまで醫者を賴んで置く事は出來ない、然るに學校に於ては學校醫があつて、兒童の健康狀態を注視して吳れる職務を取つてゐる、それゆゑ兒童に何か健康上の異狀が起ればそれを早く發見して吳れてドウすればよいかと云ふことを指圖して吳れるのであつて、學校醫は家庭の爲に實に良い衞生機關であるから家庭は十分に之を利用しなければならぬ、然るにそう云ふ考が家庭には確然と

存して居ない日本では實際に於てまだ學校醫がそれだけの働をするやうになつてゐない、それを活用して學校衛生當然の效益を收めるやうな機運に早く達し度いので、それには家庭も十分に御盡力になるやう希望致します。

叢談

疾病の豫防

これは獨逸國の樞密醫官、伯林大學教授ドクトルエー、フオン、ライデン先生及びカイゼル、ウイルヘルム「アカデミー」のドクトルオー、ニードチル先生の共述に係るものでありますが、簡單で要を得た御話と存じますから、譯して講演代りに玆に掲げることゝ致しました。

個人衛生は近年に至つて漸く重せられて參りました、政府は人民全般の爲に益々保護の手を擴げ、國家的及び社會的衛生事業の範圍は年と共に新に發展し、各個人に取つても、その健康を維持し、これを强めて行くと云ふことは極めて必要なことで、以前から見ますと大に注意さるゝやうになりました。吾々の文明生活は駸々として絶えず發展するにつれ、人間の努力を要することが甚しく、大都會に多數の人間が相集り、一時住民過剩となりますと、生存競爭が烈しくなつて、これに堪へるには各々力の有りたけを出さなければならぬと云ふ始末であります。現代は勞働管理の時代で、身體の方の勞働は漸次器械の發明に依て代償はれることゝなりましたが、その代りに精神能力を費すことは非常なもので、これに適應して行かなければならぬ、それで現代は各個人を偏頗にする傾がある。こゝに健康上の危險があるのであります、即ち元來健康と云ふものは、身體並に精神共に、調和的に、平等に發達して有ゆる能力を發揮し得る所にあるのですが、これが危險くなる。

幾多の病氣は今日と雖も相變らす人間の健康を脅かしてゐる。醫學並に衛生學の進歩は、此等多數の危險を避くる方法手段を示して居るけれども、吾々が生活し、働いてゐる間は、全然これを免れると云ふことは六ケしいのであります。然し吾々は健全堅固の身體は總ての病氣に對して非常に抵抗力があり、しかのみならず大抵の病氣には全く感じないものであると云ふことを承知して居ります。故に現今の生活は、この身體の强健及び抵抗力を毀害する傾がありとすれば、此等の有害作用に對して絶えず適當に防禦策を講じて、强壯に調和的に發達した身體を保つことに特別の注意を拂はなければならぬと云ふことは當然のことであります。これには第一に如何なる方法を採るべきか、限ある紙數の許すだけ、以下これを申述べることゝ致しませう、

先づ我國(獨逸)の氣候の關係は、適當な住居を選擇するに特別の注意を要します、卽ち吾々は一年の中餘程長い間この障壁を要するからであります。住居は小兒の生育を保護し、家婦の活働場であり、夫が日毎の仕事を終へたる後の保養所であります。故になるべく善い住居を造る爲めには儉ならんよりも奢ろ過ぎて然るべきであります。各家族に對して庭園のある自宅なれば先づ完全の狀態と至さなければなりませぬ、材料に乏しく且つ土地が高價い、殊に大都會に於ては只最少限の土地を得るに過ぎませぬから止むを得ぬことであります。然し少なくとも、住居を除り甚しく制限されぬやうにすると云ふことが問題である。健康に宜しい住居としては、光線と空氣とが第一に緊要である、而して狹くとも大人一人に就いて、暖めることの出來る室が一室づゝあるだけの廣さはなければなりませぬ。又寢室と煮炊きをする室とは何時も別になつて居つて、寢室は場處割をする時に特に選ばなければなりませぬ、寢室には一番廣い而して最も風通しの良い室が良い、これは何れの室よりも寢室に必要なことであります。家屋は恰も不良の天候に對する外套の如く、特に寒氣

濕潤竝にその有害作用を防禦すべきものであります、故に乾燥してゐなければならぬ。地下室の底は地水の最高位置よりも上になければならぬ、卽ち浸水域の外になければならぬ、而して建築地面は雨水が速に流去るやうに透過性であるか或は善く疏通するやうにしなければなりませぬ。新しく建てた家屋は、引移る前に豫め乾燥させることが必要である、塀や壁が濕けて居ますと、住居は寒く且つ空氣の通過を許しませぬから、室の空氣交換が惡いものであります。壁には空氣を含むでゐる壁、例へば空洞煉瓦等で出來て居るものが最も宜しい、これなれば同時に外氣の甚しい寒さ暑さに對しても有效であります。暖室と同時に通氣を良くすれば室內は最も早く乾きます、室の牀は全く緻密な方が良い、不潔物が下に這入つて、其處で分解し發散したりしないやうに嵌込の牀板にするのが一番宜しい。窓は光線の多く這入るやうに、なるべく大きく、又なるべく天井に近く上の方まであるのが良い。

此の理由からして、窓掛を以て窓を覆ひ、又花卉や種々の裝飾を以て窓口を塞ぐことは、なるべく制限しなければならぬことは勿論でありますが、併しこれは室內の他の裝飾品や用具と同じく住居の風致を增す所以でありますから、全然これを廢することは出來ませぬ。但し窓掛、敷物其他の織物の類は特に塵埃の溜まるものであると云ふことを承知して、屢〻淸潔にしてこの不利益を除くことに努めなければなりませぬ。卽ち美と實益との調和を計ることが必要であります。

右の原則は衣服に就ても特に注意すべきことであります。衣服は有害の氣象の影響に對して吾々の身體を保護し、殊に外氣溫に關係なく、固有の體溫を保つ爲に、何時も略ぼ同量の食物で足りるやうに、甚しく體溫を失ふことを防ぐものでありますが、身體の固有の溫調節を妨げぬやうに通氣性のものでなければなりませぬ、一體人間の身體と云ふものは、周圍の空氣の溫度が高くとも、食物を多量に食

べても、餘計に働いても、一定の狭い範圍の間で温を高低して、その固有の體温を保ち得る間だけが健康なのであります。

身體は主として皮膚の血管を擴張して多く温を外に出し、又汗を出して、これを蒸散することに由て餘分の温を始末してゐるものであります。それ故に衣服は、外の氣温に應じて必要の温度を身體に供するに足るだけ厚くなければなりませんが、又身體の為に必要となる所の温放出を妨げぬだけに空氣の通りが良くなければなりませぬ、尚ほ汗が出て濕るときにも此の性質を失はぬものなることが必要であります。最後に、衣服は身體の運動に自由であつて、身體各部を壓つけ或は狭めたりすることを避けなければなりませぬ。

衣服の厚さに就ては、これはその土地の氣候の關係及びその氣温の變化の具合に依て異りますが、先づ稍や暖かい季節を標準に取らなければなりません、夏は薄い、身體に密着しない、白つぽい物を選み、冬は厚い、黒つぽい、氣孔の多い織物で、夏の衣服の倍以上の目方(約七キログラム迄)のものを用ひますが、併し衣服の温かさは、その織物の厚さよりも、身體を被ふて居る著物全體の厚さに關係する方が多い、つまり著物と著物との間にある空氣の層が温を保つに有力なものであるからであります、それでありますから薄い著物を澤山重著した方が、それだけの厚さの一枚の著物を著たよりも餘程暖かであります。この經驗に依て、烈しい氣温の變化に際して體温を保護することが容易である。吾國の氣候の狀態では薄い夏シャツの外に、夕立とか晩涼とか急劇の氣温動搖の危險に對して何時でも温い上著を用意して置く必要があります。小兒には特にこれは必要なことでありまして、貧血性の虚弱な、痩せてゐる小兒は、普通の小兒よりも多少暖かにして置なければなりませぬ、不注意に強固法を試みますと、斯様な小兒には、餘計に體温を失ふことは、その體質の為に害になりますから可ませぬ、下腹部を温かにして

置けば、餘程種々の病氣を防ぐことが出來ます。

然し又餘り暖か過ぎる衣服は不利益である、何となれば皮膚は、これが爲に正常の反應機能を失ひまして僅かの寒さに當つても直ぐ風を引くやうになるからであります。又餘り衣服が溫か過ぎますと絶えず汗が出て、それが皮膚を侵し或は汗の蒸發する爲に惡寒を覺ゆることがあります、それで厚い毛絲の靴下を穿きますと、往々反つて足の冷たいことがあります。中等度の氣候或は暖い天氣の時に、只非常の天候の際、又は呼吸器の感冒を防ぐ爲に用うるやうな毛皮や襟卷の如きものを用うるのも同樣の害があります。

唯だ老人に於きましては、皮膚の反應機能が衰へてゐるのに、身體の運動及び血液の循環も大抵不活潑になりますから、從つて溫の發生も少ない譯であります、故に老人には溫暖の必要あるは當然のことであります。吾等は幾重にも衣服を重著する習慣は既に前に述べました理由に依て、他の薄い、從て目方の輕い織物を選み得ると云ふ利益があります。

一番外に著る衣服の質を選みますには、常に色合とか柄とか云ふ美的の見立を酌みなければなりませぬ、衣服は又人間の一種の飾になつて居りますから當然のことでありますが、斯樣に上著に就ては、兎角柄とか色合とか云ふことに重きを置くやうになりますから、下著の撰擇に就ては特に合理的に健康上の事を考へて選まなければなりません。總て洗濯することの出來る衣類のみを用うることは、大に希望すべきことでありますが、併しこれは經濟上許さぬ點もありますから、從つて地質の撰擇も制限される譯であります。

溫を保つに最も良いのは毛織物でありまして、これは又同時に皮膚から出る所の汗を吸取つて除く働があります。毛織物は濕潤つてゐる皮膚にも密著せず緩く肌に著いて居りますが、他の滑かな品物は肌に粘ばつて、吸取つた水分で濡通り、溫の良導體となりますから、多く體溫を奪ひ、冷やかな感じがして

感冒に罹るやうなことになり易いものであります。それで温度の變化が烈しいとか、汗の出る仕事と休息とが頻繁に交代すると云ふやうな場合には、毛織物は特に有益であります。又行屆いた身體衛生を實行し難い場合にも有益である、即ち毛織物は汗と共に皮膚の不潔物を取つて外に出しますから氣孔が塞がれる爲に皮膚の働の惡るくなるのを防ぎます。然し厚い毛絲の襯衣など許り召つけますと餘り身體を增長させて、前に述べたやうな不利益を來しますし、薄い毛織は持ちが惡い、それで平素の下着には前の理窟から云へば多少劣つては居るが、滑な肌ざはりの良い織物に較べれば遙に效力の優つて居る所の木綿、フランネル其他の綿絲地質の物を用ふるのが最も適當であります。

身體を極めて清潔に保つことが出來、又外の氣溫が高くとも汗で濡れる心配のない時には、麻や其他の滑かな地質のものでも宜しい、即ち身體を休めて居る時、又寢衣等には滑々した地のものを用ゐても宜しい、併し毛織、木綿、麻、絹物と云ふやうに、毎日御召更すると云ふことは誰にも出來ることではありませぬ。

衣服の地質は空氣の通過を許す性質のものでなければなりませぬが、衣服を著た時にも此の性質が必要であります、即ち著物と著物との間に在る空氣が循環して絶えず新しくなるやうでなければなりませぬ、既にこの理由から云ふても、著物を固く身體に緊め著けることを避けなければなりませぬが、尚ほ窮窟な衣服や、強く緊めることに依て身體の自由運動を妨げることは特に注意してこれを避けなければなりません、これが爲に血液の循環を困難にし、又育つ盛りの小兒に於てはその發育を害することにもなります。この點からは成るべく寬やかな服が宜しい、流行の型などを顧みず、専ら身體の發育を害せぬやうに注意することが肝要であります。狹い靴下、靴下紐、襟、帶、殊に「コルセット」等は既に多數の人間の健康を害して居ります。

裾を曳く衣服は運動を妨げ且つ道路又は公衆の集まる場所に於て、往々眞に危險なる塵埃を渦卷き起てそれを又自分の住居の内に曳ずつて來る、要するに長裾は淸潔と云ふ點から考へて、衞生上にも又美的の要求にも少しも益する所のないものであります。

婦人服は、目下最も廣い範圍に亙つて一問題となつて居りますが、未だ滿足な解決を得ません。これは畢竟各個の著物の數が餘り多いからであります。近頃は種々の改良案も出來て、衞生上從來のものよりも餘程良いと思ふものもありますが、さうすると又今日と雖も要求さるゝ所の外觀に就ては棄權する所がなければならぬは勿論のことであります

若し多數の婦人が、格好が善くないからと云ふ理由で以て衞生的の服を嫌ふならば、これは敎育を施さなければならぬ點であらうと思ひます。若し多數の人間が未だ働き盛りの年齢で既に無格好の姿になるならば、これは確かに良からぬ狀態であります、男子では往々液體、殊に麥酒などを飮み過ぎる結果、又男子に限らず婦人でも運動不足の結果、緊のない無格好な體になることがあります。職業的の仕事の無いものは體操遊戯等に依て運動を補ひ、常に身體の彈力を保つやうにして、餘分の脂肪が著くのを免れなければなりません。吾々はこの目的を達するには、健康の與ゆる限りに於て正當なる美的の要求を犧牲にしなくとも宜しいのであります。

下著類は總て煮るのが宜しい、特に洗濯所又は洗濯屋に於ては是非煮ることが必要である、卽ち病人の著たもので、病原的の附著して居る洗濯物からは容易に傳染を來も虞すあるからであります。同一の理由に依て新しい下著類はこれを用うる前に一度洗ふが宜しい、又出來合ひの襯衣、衣服、手袋の如きものを一寸試みに著て見ることも成るべく差控へるのが安全であります。

（以下次號）

延命長壽法

人間には長生をしたいと云ふ慾があるので、昔から今日に至るまで様々の研究がある、從つて各個の生命を延長する秘法と云ふやうなものが西洋にも支那にも日本にも、ことに印度あたりには無數にある、然し實際その爲に長生が出來たと云ふ證據は餘りない、昔の延命長壽法は實際長生をした老人の生活法、殊にその一種變つた習慣などを採り、又經驗上身體の爲に善いやうに感ぜられる事に理屈をつけたのが多い、これは先づ尤なことであるが、中には宗教的の迷信に基いた禁厭のやうなこともあり、大抵は餘り害にもならぬ、多少利益になるやうなことが多いが、然し人體の解剖も生理も知らずに空想的に考へ出した方法のみであるから、依るに足らぬことは勿論である、所謂仙人などゝ稱するものゝ如く山野の新鮮な空氣中に居つて、世事を餘所にして、自分一人我儘氣樂な生活をすれば、五十年の壽命が五十五年に延びるかも知れぬが、それは殆ど人間としては無意味な長生であらうと思ふ。

人間の身體に關する學問が進歩しない時代には、空想的に無窮に生活する方法も有りさうに考へられ、普通の人も左様な事を信じたかも知れぬが、今日の學問ではさう云ふ夢の見やうがない、從つて別段奇妙な延命長壽法などゝ云ふべき特別の方法は無い、只有害な事を避けて健康を維持し、更に健康を增進せしめる普通の衛生法が眞實の延命長壽法である、此他に不思議な特別の方法があると云ふならば、それは邪法であると云ふて差支がない、決して迷はぬやうにしなければならぬ、それで今日も昔の口癖に倣つて延命長壽法などゝ題して素人に衛生的の生活法を說く、眞面目なものは何時も平凡にして何等の奇がない、特に衛生の事の如きは然かあるべき筈である、只實行の問題で、能く實行が出來れば確かに利益がある、今日の延命長壽法の一例として、英國の大醫ヘルマン、ウエーベル氏が嘗て述べた所の大

略を左に紹介する。

先づ老衰にて死亡する年齢は何歳位かと尋ねて見ると、近年の人口調査に據れば、年齢九十歳に達するものは五千人に一人、百歳に達するものは凡そ四萬人に一人の割合で、通常生活の終焉は八十歳と見て宜しからう。

長生に必要の條件は、體質が元來良いと云ふことでその心臓、血管及び呼吸器の健康なことが必要である。筋肉の力の強大なものは通常長壽を保たない、それから消化器及び腦髓の良いと云ふことも生命の長短には餘り著しい影響がないやうである。

長壽の血統の家に生まれたものは、どうしても長壽なのが常である。短命の家系に生れた人にありては、その親の死したる原因を尋ねてなるべく、早く遺傳素質に對して用心することが必要である。殊に新鮮の空氣は何れの時にありても、又何れの處にありても健康を保持し壽命を延ばすに最も必要の條件であることを忘れてはならぬ。

老衰して死亡するのは、主として身體の組織及び器官が消耗し、血管及び血液を製造する器官の變化を來すに由るのである。故にその組織及び器官に健康の血液を輸送することに勉むれば能く老衰を防ぐことが出來る、從て健康の血管と血液製造器とを要するわけであるが、凡て器官は能く操作すれば年若く保たれて居り、操作せざれば早く年老ゆるものであるから、規則正しく運動して永くその器官を若やかに保つ工夫をしなければならぬ。運動の方法にも種々あるが、その中で最も自然的の運動は所謂散歩である。散歩の時間はその人々の狀況に依ることであるが、凡そ一日に一時間乃至一時間半で澤山である。半分は朝、半分は午後に散歩するのが宜しい。其他呼吸運動、體操、乘馬、遊戯等によりて呼吸器を良くすることも奬勵すべきことである。榮養の方法を適當にし、消化を良くすることも、生命を延長するのに必要の條件である、併しこれは各人各種であつて一定の規則を立てることは困難であ

る。老人には肉とか卵のやうな蛋白質の多い食物は餘り與へぬ方が宜い。植物性のみの食物は正當の榮養法ではない。善く咀嚼すれば消化を容易にして胃病を防ぐ效がある。酒類は健康の人には無用のものである、酒の爲に病を惹起し、生命を縮めることも尠くない、但し少量の酒を飲むことは大抵の人には害にならぬ。茶や咖啡も餘計に飲まねば別に害はない。煙草も同樣である。「チヨコレート」及び「ココア」は滋養の效がある、殊に勞働した後に用ひて宜しい。便通を整規にすることを怠つてはならぬ、慢性便祕あれば野菜、果實等相當の食物に依つてこれを治せねばならぬ、若し重症の便祕なれば下劑も用ひなければならぬ、下腹の按摩も效のあるものである。

睡眠にも注意しなければならぬ。健康の人は五時間乃至七時間眠むれば十分である、多數の人は睡眠が過ぎる、神經系統を若やかに保つ爲めには、常に精神及び身體を勞働させることが必要である。規則正しく身體を運動せしむるときは、腦及び神經細胞に多量の血液を注入して、その身體及び血管を健全にするものである。若し身體及び精神の勞働を廢するときは、身體器官は速かに頹廢するのが常である、これは官吏が退職するとか、商賈人が隱居するとか云ふ場合に常に認めらるゝ所の現象である。

榮養と果物

今日吾々の血液を惡くする所の事柄は隨分いろ〳〵御座ります。まづ閉ぢこめた室の中に長く居つて、新しい空氣を吸ふことが少ないとか、種々の事情の爲に睡眠が足らないとか、氣を使ひながら、無理に仕事をしたり、急いで飲食したりする。かういふやうな今日の宜敷くない生活法は、一般に神經を害し血液を惡くすることで御座りますが、尚は一層重大な、害になる事柄は、食物の宜敷くない事であります。然るに多くの人は、左樣とは考へませぬ。却て

今日の飲食物は、文明的で、學問上から割出して、至極上等に成つて居るから、吾々の先祖達の飲食物から見ると、遙に優等だと思つて居ります。これは一般にさう考へられるやうでありますが、なかなか當にならぬ話であります。

勿論吾々の臺所や、料理の仕方などは、改良されて昔よりも結構に成りましたが、こゝに一つ大事な缺點が潜んで居ります、といふのは、吾々の食物には榮養鹽類が少なくなつて來たことで御座ります、これは人間の身體を造るには、大切な働のあるものでありまして、食物にも、人の身體の中にも在る所の鹽でありますが、榮養論では、この礦物質には、餘り重きを置かないのでありまして、これは通常の食物の中に澤山あるものだと云ふ説明で滿足して居るのであります。見渡すところ、吾々の慣れ來りの食物、昔からの食物は、段々變つて參りまして、殊に西洋流が入込んでからは、肉類が非常に力を附けるものであるといふ評判を取つて、流行をなし、特に改良御臺所では、是非これに限るといふ有樣でありまして、一口に申せば、多肉少菜であります。偖てこの肉といふものは、一體吾々の身體を構造るに必要な鹽類を十分持つて居るかといふに、決してさうでない。まづ鐵とか、石灰とか、燐とかいふやうなものに乏しい、即ち骨や歯を構造る成分も、血を良くする成分も足りないし、用ゐ耗らして神經を補ふに必要な成分も不足である。所でこれらの鹽類は色色な野菜の中に含まれて居るのでありますが、これが以前から見ると大分制限されて來たのであります。

吾々の先祖は、米麥などをそのまゝ、炒たり炊いたりして食べて居た、西洋でも近頃まで粗製のパンを食べて居た、これには糠が澤山有て、それもまた一つの榮養鹽を含んで居る譯でありますが、世が開けて來ると共に、碎いたり磨いだりすることが巧になつて、段々精げ方が念入りになり、碁石のやうに光つた御飯を食べるやうになつた、パンもその通り粗

粉の黒パンが、極々細な粉で製つた綿のやうな白パンと云ふことに成りました。これはなるほど消化もよいでありませう、從つて榮養にも宜敷いでありませう、實際、蛋白質と澱粉質とは、その榮養の爲に善くなりましたが、榮養鹽類の方は不足になつて來たのであります。

甘味といふものは亦昔から人間の榮養に大關係を持て居るものであります。然し昔は、純粹の砂糖といふものは知られて居ない、また稍後になつても非常に高價なものであり、蜂蜜とても、さう澤山出來るものではないから、この甘味を取るには、他の方法に依らなければならなかつたので、果物とか、草木の根、例へば胡蘿蔔などから甘味の御馳走や、汁を造つたのであります。これには只砂糖があるばかりでなく、榮養鹽類を澤山に含んで居ります。處が七八十年前から、これが只甘蔗より採るばかりでなく甜菜などからも製られるやうになり、化學の助で以て純品が出來るといふやうになり、段々色々な技術や仕掛を用ゐて、砂糖から、これに混つて居る石灰とか、燐といふやうな鹽酸を除き去つて、一般に用ゐられて居るやうな精品と成つて參つたのであります。でありますが、從てやはり吾々の食物の中の榮養鹽類が非常に減らされた譯であります。

吾々の先祖は、大に果實を珍重したもので、たゞ味が美いといふ點からばかりでなく、またこれを食料としたものであります。又果實は血を善くすると稱したものであります。これは今日でも大概さういふ考へを持つて居るのでありますが、どうかすると、生齧の學問から果物を價値ない物の如く云ひなすものもあるので御座ります。これは畢竟、化學的の檢査をして、その蛋白質が少くして、水が多いのを見て、直ぐ果物は榮養分に乏しいと言ひ出すのであります。おまけに、果物を食べて、偶々チーフス、赤痢、コーレラなどに罹つたといふので、生の果物を食べる事を禁じ、一切果物は煮て食べなければならぬと心得たのであります。尤もこの考は、時により

ては正當なことでありますが、然りとて餘り目的を餘所にした、過ぎた話であります。

今日は西洋でも、その肉の食過ぎと、鑛物鹽類の不足で、食物が段々目的をはづれて來て、身體が弱くなるといふことを言ひ出して、いよ〳〵野菜、特に果物を盛に用ゐるやうになりました。これは獨逸などよりも、英國や、米國の方が先驅をして居ります。

偖てこの果物は、如何樣にして食べればよいか、生がよいか、煮たがよいかと申せば、傳染病などの流行しない時には、孰でも宜敷い。只果物を煮るのには、砂糖を加へなければなりませんので、直に厭きてしまひますが、生のものは、さういふことが御座りませぬ。それで、やはり生のものが善いと云ふことになります。

我邦に於きましては、殆ど年中結構な果物を味はふことが出來まして、從來の梅、桃、李、梨、柿、葡萄、さては林檎、蜜柑より、近來は又北の方、北海道より、南、琉球、臺灣に至るまで、種々な西洋種のものが、美事に出來まして、バナヽ、パインアップル、櫻桃、覆盆子の類まで、四季折々の珍らしく美くしく、味の好い果物の絶ゆることもなく、又物によりては、次の年まで貯へて置くことの出來るものも少なくないのであります。尚ほ干したり、砂糖漬にしたり、鑵詰にして貯へることも出來ます。西洋種のものでは、特にバナヽ、棗、無花果などは、結構なもので、小兒などにも、砂糖の強い、高い菓子などを與へるよりも、幾何よいかわかりません。落花生、胡桃などは、少しく消化がわるいのでありますが、これも近頃西洋で製るヌッスブッテルなどいふやうな物にすれば、至極消化も良く、榮養に富で居るものとなります。

斯樣な次第でありまするから、吾々は何時でも、望に隨つて果物を膳に供へることが出來る。十分これを食べて差支がないと思ふのであります。果物を多く食べて、餘の食物を儉約して宜敷い。又果物は、よく渴を止めるものでありますから、これを食べれ

は、その他の葡萄酒とか、麥酒とか、サイダとかいふやうなものは、飮まないでもよい譯であります。

以上は、榮養鹽類を與へるものとして、果物を見たのでありますが、尙ほその他にも、健康上に善い性質があります。と申すのは、今日の所では、前に申したやうに、食物が物濃くなつて、榮養分は澤山に含んで居りますが、滓が少ない　一體吾々の消化器といふものは、自然に滓の多い食物から榮養分を採り出すやうに出來て居るのでありまして、その植物性食物の、木質、ツエルローゼのやうな滓の部分が腸に必要な刺戟を與へて、その働を善くするのであります。坐つて居ることが多くて、物濃いものを食べて居る近頃の人は、これが爲に往々便祕を來してそれより痔だとか、頭痛とかいふやうなものを患ひて居る。又餘り長い間、腸の中に滯つて居る食物の殘物は、醱酵し、分解して、毒を拵らへ、これが血の中に移り行いて、血液を惡くする。然るに果物は消化を整へ、便通をよくし、消化の振はぬ爲に起る所の障を防ぐものであります。是を以て觀れば、昔の人が果物は血を淨めるといふたのは、眞に理のあることゝ思はれます。

果物は又この他にも、血液に取つて、大事な關係を持て居ります。乃はち吾々の體の中には、自然に尿酸が出來ますが、通常の狀態では、外に出される。所が種々な害を蒙むれば、これが血液の中、身體臟器の内に溜つて、よく痛風といふやうな、重い障を起して來るものでありますが、肉類を多く嗜むものは痛風に罹り易く、多く植物性の食物を採れば、これが癒ほるやうになると言はれて居る。この目的には、果物は特に宜敷い、何となればその中に含んで居る植物酸は、よく尿酸を外に出す働があるからであります。

それ故に、これに似寄つた場合には、以前より果物療法を應用されたものであります。然し素人には、どういふ場合にこれを用ゐればよいかは一寸分かり兼ねる、これはまあ醫者の仕事でありまして、この

果物を食べてはならぬ、病氣の狀態もなか〳〵澤山ありますが、これをかまはず、果物療法をやつて、大害を招くことも往々見受けられる所であります。然し茲に申す所は、病人の爲に言ふではなくして、健康な人が、更に健康に生活して行かうといふ爲に申すのであります。これには果物に限るのであります。果物を買ふときは、熟したもので、而も腐つて居ないものを買はねばなりませぬ。これは分り切つた、言はずもがなの事でありまするが、世の中には隨分わかり切つて居る衞生上の法則を破つて、平氣な人も決して少なくはないのであります。

又齒を惡くするから果物を食はぬと云ふ人もあります。これは一應尤もなことで、果物の中に含んで居る所の酸は、齒をも侵すでありませう。然しそれは酸が永く齒に觸れて居る時のことで、果物の後に直ぐパンを食べるか、口を洗へば、齒を害するやうな氣遣はありませぬ。のみならず、これと反對に、果物は齒を強くすると申してよろしい。どうしてかと云へば、果物は、齒の構造に必要な鑛物質を、血液の中に送るからであります。それで齒の生育つ所の兒童に、果物を食べさせるのは、宜しいことであります。

口のたしなみ

凡そ顏面にある機關は目でも鼻でも口でも夫々其生理的の役目を務めると同時に又最も機敏に情緒の働きを表はすものであります、其なかでも目と口とは鼻に比べると心の儘に動かす事のできる程度が遙か大きいので表情の働きも自由で、從つてそれが其人の全體の容姿に取て重大なる關係を有する事は申すまでもありませぬ。目に就きては前に一寸申上げた事がありますから茲には口に就て少し許り申上げ樣と存じます。

口つきの事を申述べる前に、話の順序として胎兒に口のでき初める模樣を申上度と存じます、口の下地

のでき初めるのは胎兒が母胎に宿つてから約六週間目であります、其時までは只一樣に軟な塊にすぎなかつた頭の眞中の、後で額にならふと云ふ部分から一の突起が伸て來、更に其突起を中央に挾んで左右から二對の突起ができ、都合此五つの突起が喰著合つて始めて上脣を形造るのであります、又下脣の方でも右と左と一つ宛の突起が兩方から伸て來て之が丁度眞中で喰著合ふのですが、之は上脣とは少し早目に出來上つて居るのであります、恁云ふ風に上下の脣が完全に喰著合つて夫れで始めて口腔の外側に對する境が判然と分れるのであります、處で以上七つの突起が喰付合ふとする時分に、假へば胎兒が子宮の內で普通とは違つて極て窮屈な姿勢を取つて居るとか、或は此等の突起のうちで他の突起に較べて發育の遲いか若しくは不完全なのがあるか、或はその外に何か障碍がありますと其突起の融合の工合が完全に參らず從つて脣が一樣の滑らかな緣を取る事ができず或は一部分に深い溝ができたり又甚だしいのになると脣がずつと裂けて居る樣に見え、俗に所謂えぐち、三つ口など云ふ樣な狀態になるのであります、西洋では之を兎脣と申しますが是は最もよく其有樣を言ひ現はし得たものと考へます總て人の體に顯はれる畸形には數えきれぬ位樣々なのがありますが、此等の畸形は皆漫然と何處へでも無暗にできるものではありませぬ事は此口の例でもよくお分りに成るであらうと考へます、畸形は畢竟胎兒が胎內に在て充分な發育を妨げられた所に起るもので其箇處は重に口とか手足の指とかの樣に比較的細かい發育を要する部分に多く學問上からはその場處が大抵一定して居るのであります、又或部分の畸形に就て其例を澤山に集め之を研究致しますと人體の其部の發育の仕方を知る上に於て甚だ有力なる參考となる事が少くありませぬ。

恁云ふ風な脣の畸形は數ある人體の畸形のうちでも最も頻繁に見受ける所のものでありまして其內でも男の方が女子の方よりも少しく多い相であります、

又場所も上唇に多く特に其左側の方に裂目のあるのが最も多い相であります、併し時には左右兩側に一宛の裂目を見る事もあります、又其裂けて居る程度も樣々であつて甚しいのになると鼻の下迄裂けて居り、同時に齦肉や口蓋までも眞二つに裂けて居る樣な事もあります、三つ口の小兒では大切な口の周圍に裂目がある事ですから單に其外見が惡い許でなく一寸笑つても眞白な齒竝や眞紅な齦肉がにつと露はれて誠に無氣味なものであります、其上口を塞ぐ事が不十分である爲に外氣の影響を受けて食べた物や口中の液が腐敗れやすく從て斯る乳兒は始終慢性の腸胃加多兒に罹り易く、其上唇の縮りが充分でないため乳を吞むのに甘く行かず、此等の原因が一所になつて遂には乳兒の榮養があしくなり餘り長く育たぬと云ふ樣な場合が多いのであります。併し此三つ口は外見の醜さの割合には手術は頗る簡單であります、先づ其裂目の外皮を切取つて新らしい創面を拵へ、之を兩方から引き寄せてぴつたりと喰付かせ、夫れを細い絲で縫合すのであります、極小な乳兒ですと未だ感覺が鈍く痛みを感ずる事も左程でありませぬので麻睡劑を用ひないで手術を致しますから其點も亦心配には及びませぬ、夫れでは此手術は何時頃に行ふのが一番良いかと申しますと、小供の發育盛りでは創の癒える事が早う御座いますから成るべく早く手術するのがよろしくあります、西洋では五歲位がよいと云ふ說と生後三ケ月位の處が最もよいと云ふ說がありますが又一方では生後直ちに手術をするがよいと申す極端な說もあります、現に產れて五時間程經つた許で手術をして立派に成效した例もあります。併し私共の考では生後一箇年位な所が最も適當かと思はれます、此時節に手術をすれば生長後にはその縫合せた部分に只細い創痕が殘る許であとは綺麗に癒つて仕舞ひます。

次に口の大さでありますが是は我國でも西洋でも餘り大に過ぎたのは何となく其人の精神迄鈍く卑しい樣に思はれ、又餘り小さいのも鼻を中心に置て目と

相對しては大さの釣合が取れぬので之又何となく品位の足らぬ樣に見えるものであります、昔の名人の刻まれた彫像や何かを見ますると、兩方の目がしらの距りと鼻翼及口の横巾とが皆等分にしてあるのが多い相でありますが、實際に於ては口は之より少許り廣いのが普通であります、獨逸のストラッツと申す學者の研究によりますと口の横巾は目のきれめに對して三と二の割合にあるのが一番程よい大きさだと云事であります、卽ち美學上の原則から見て一番釣合の美しい顏と云のは、左右の目がしらの間の距りが其目のきれめの長さに均しいので、更に其目に對する口の横巾は左右の目尻の間の距りの丁度半分に當るのが最も調和のよい釣合である相です、日本畫の方では美人を描くのに何時でも目を小さく鼻筋を細くかきますから從て口も誠に小さく描くので自然と此『美』の標準に適つて居る譯です。

次に口の形は人々により樣々ではありますが、夫れは何れも顎の骨の工合と脣との關係で色々になるのです、三つ口の事は前に一寸申上ましたが又一方では脣に何の不足がなくても、顎の骨の發育の仕樣で色々の醜い有樣となる事まあります、多くの人では下脣よりも上脣の方が少しく長くて多少下脣を掩ふのが當然であります、是は横顏で見た時に一番判然と分ります、而して此上脣が下脣を掩ふ事の甚しいものになりますと口の角の處から下へ向けて一條の淺い溝ができる樣になります、是は小兒の時代には屢々見受けるもので亦大人でも肥つた方には折々見受ける事があります、何所ともなく愛嬌があつて特に口元が締つて見えて確かに美貌の要件の一つと考へられます、ナポレオンの肖像などには此溝が特に著しく如何にも精悍に何となく顏を引き締めて見せます、又假令上脣の長さは普通でも、上顎の骨が餘り伸び過ぎて居る時分には前の場合とは反對に、下脣の方が前に突き出て甚しいのになると猿猴の類に見る樣に有樣となります、其他上顎の骨が餘り前に出張りすぎて居るか、或は下顎の骨

の發育が不充分で小さく成つて居る時には、尖つた上脣が前に突き出て俗に云鳥の嘴見た樣な口つきとなります、顎の骨が口の形に及ぼす關係はかくの如く大なるものでありますが、近來の醫學の力では顎の骨の形の惡いのも或程度迄は矯整する事ができるのですから必要の場合には一應外科又は齒科の醫者に就て御諮ねになるのがよろしいと存じます、又もとは十分發育して居た顎の骨でも骨髓炎などゝ申す骨の病氣が長く續きますと、遂には骨の萎縮を起して生れもつかぬ『鳥の口』などになる事もありますから、總て口腔の部分に病氣でもありましたならば一日も早く醫者の診察を受けて適當なる手當を御施しなさる方が安全であらうと考えます。

口は物を食べる時か話しをする時か或は欠伸をする時の外は堅く塞いで居るのが普通であります、而して塞いだ脣は略一直線になるのが通例ですがそれが愁を表はす時には其兩端が下に降り、悦びを表はす時には上の方に昂るのであります、ジユ、ズュペルベルウヰス氏は顏の皺は表情の本であつて一般に其眞直なのは平靜、上に曲れば悦び下に曲れば愁の相を現すものだと申しましたが、其最もよい例は此口元の皺に就て見る事が出來るのです、口は顏に在つては目と同じ樣に其形によつて斯の如く樣々の微妙な表情の運動をなしますから其周圍には又澤山の小さな所謂表情筋肉を供へて居ります、其内の或筋肉が働けば口の兩端を上に引きつり頰を膨らまして笑臍を出し、同時に目尻に小皺を寄せて歡びの相を現はし、又或筋肉が働けば上脣の眞中を少し上に釣りあげ同時に口の兩端を下に曲げて不滿足の樣子を現はし、猶一歩進むと其上に鼻孔を擴張して號哭の相を現はします、其外下脣をひきさげて脣の緣を反翻せば嫌忌の相となり、口角や鼻の下をひきさげて同時に口角に並行の小皺を寄せれば人を侮る相となり、其他樣々な微細な運動によつて目の表情と相待つて言外の意味を物語るのであります。

前に申した通り口は平常は塞いで居るのが普通であ

りますが折には初中口を開ひて居る方を見受ける事が有ります、口元の締らぬのは其方の心迄締らぬ樣な氣が致して、容姿としても誠に見苦しい許でなく實は生理的でも甚しい害があるのです、鼻には鼻毛が密生して居て吸込んだ空氣の中の塵や埃を漉し取り、同時に夫を通る空氣はいくらか溫められて然後に初めて咽腔に達しますが、之が口から直接に這入るとなると冷い空氣が直接咽腔の粘膜に觸れるので始終咽喉のかたーるに罹り易く、且つ塵埃を一所に吸込みますから從つて色々の呼吸器病に罹る機會が多くなる譯であります、ですから是は如何しても自然の呼吸道である鼻から呼吸をする樣にせなければなりませぬ、始終口を開て息をする方の中には、或は注意の足らぬ爲に單に惡い癖となつた方もあるでしやうが、中には又鼻のうしろに腺樣增殖と云つて腫物ができ、夫が鼻から咽頭に通ふ穴を狹くして呼吸を妨げ、夫で自然と口を開て呼吸をする樣になる方も多い樣であります、此病は單に鼻から呼吸し難い許でなく、初中腦が惡く氣が鬱いで、特に小學校時代の年頃では夫が長く續くと智識の發達にも少からぬ影響を及ぼすものでありますから、是は是非とも一日も早く醫者に就て手術をお受けなさらねばなりませぬ、中には甚しい腺樣增殖がありながら少しも夫に氣附かず、何の爲に氣分が鬱ぐのかと怪しみ乍らも猶其儘にして居る方も見受ける事があります併し恁云ふ方は夜分眠る時でも口を開て寢るので從つて大きな鼾をかく場合が多いのです、大きな鼾は隨分興さめたもので特に御婦人には病氣の爲とは知らず此の爲に隨分苦勞をなさる方のあるのは屢々聞及ぶ所であります、恁云ふ折にも是非一度は醫者の診察をお受になるのがよろしいと存じます、もし夫が腺增殖の爲であつたとすれば手術せられた其晩から全く安らかに靜かに眠る事ができるのであります。

前に申した樣に脣は其形も大切でありますが、丹脣皓齒などゝも申します通り又其紅のいろも容貌の大

切なる色彩の要件であります、單に美容の要件でありますのみならずまた健康の象徴であります、ですから醫者の方でも其方の健康、血行の工合を調べるには何時でも脣と眼瞼の裏とを見るのであります、色々の病氣や又身體に故障があつて貧血を起しますと、第一番に顯れるのは此脣の色の褪める事であります、夫故に脣の色を美しく仕様と思ふには如何しても全身の榮養と健全とを計らねばなりませぬ、生れ立の小兒では脣の紅い部分は大人のよりも廣く口を閉て居ても誠に目立ちますが夫れが成長するに從ひ追々と其の幅が狹くなるものであります、併し脣の色は何程目立つがよいからと申しましても、餘り幅が廣過ぎますと何となく厚ぼつたく口が大きく見え、西洋でも二重脣などゝ申して鈍く卑しきものとしてあります、アフリカ・南アメリカ邊の黒人種の脣は皆此種類に屬するのであります、我國でも西洋でも脣に紅を塗つてお化粧をする事は古くからある事で、日本で京紅が行はれると同様に西洋では又佛國製のポマーデロ紅と云ふのが一番廣く用られる相であります、之を附ける目的は何れも脣の色を美しくする爲であります、夫れは自然の色に近い範圍内に限る事で、折々見受ける様な玉蟲色になるまでも塗つたのなどは餘り見苦いものとも思はれませぬ、又白粉と紅との塗様で、大な口を小さく見せ厚い脣を程よく見せるなど、總て此口元の化粧に就ては大變細い處までも研究せられて居る様でありますが夫等は改めて申上る迄もなく皆様の方で却てよく御承知の事と存じますから茲には省きます、夫では一番形の良い脣はと申しますと、上下とも紅色の幅の廣い眞中の處で始まつて夫が口の兩端へ行くに從ひ溫和な曲線を描きながら追々に狹くなつて行くのであります、且つ口の外側の皮膚の脣の紅い部分とは成るべく判然と分れて居るのがよいとしてあります。

脣と病氣との關係は前に申した通り貧血のよい目標となる許りでなく、又或熱病などの時には小さい

水疱ができる事があります、併し夫等は餘り專門的の事に亙りますから茲には申上ませぬが、只茲に一つ申上度のは脣の乾く事であります、脣の乾くのは色々な重い熱病にも來ますが其樣でなくて又之から冬先になりますと、ストーブが熱過ぎたり巨燵にあたりすぎたりなどして、所謂逆上たと申して、脣がばりばりに乾て厚い皺ができ、遂には結痂の下から血が滲出る樣な事は度々あるものであります、此時には次の處方にある藥を指頭か何かで塗ればよろしいのです。

扁桃子油	八分一ポンド
白蠟	半オンス
鯨脳油	半オンス
苦扁桃油	十二分一ドラム
「グラニューム」油	八分一ドラム

脣の乾くのは誠に不愉快なものである許でなく、之を久しく抛つて置ますと仕舞には脣一帶の皮膚が厚く粗くなります、其外御婦人でヒステリーや何の方はよく不絶齒で脣を噛む癖のある方を見受けますが、之も遂には脣の美の要素である粘膜の柔婉と云ふ事を失つて仕舞ひますから十分注意をしなければなりませぬ、次には猶齒の事に就て少許お話しを致しませう。

紅い脣に眞白な齒並に色彩の配合が誠に綺麗で顔の美を添える事は少くありませぬ、支那では理想の齒を瓠の種子に譬へ、西洋では「清水の底なる小石の樣に眞白に淸く美しくあれ」などと詩にも歌つてあります、美しい齒と云ふのは眞白で細く齒並も綺麗に揃つて居なければなりませぬ、御婦人の齒は男子のに比べますと幾分か小さく、只前齒の眞中にあるのだけは男子のよりも少し許り大きく、微笑む折には白く見立つて一層美しく愛嬌深く見えるのであります、齒並を美しくするには乳齒の時代から母なる方の周到なる注意が必要であります）乳齒が後から生える永久齒の發生を妨げ其爲めに齒並みが亂れる樣な場合には不得止其乳齒を拔去るのですが、そう

でない場合には成るべく放置つて置て乳歯の根が自然に吸收せらるゝか或は獨で脱落するのを待つ方がよろしい、歯並は細い歯がお互の間に隙間を殘さぬ様に密接して並んで居るのがよろしいが、夫と同時に歯齦からは殆んど水直に近い様に生出て居なければなりませぬ、夫れが顎の骨がずつと前に突出て居ると所謂反歯となつて之も餘り見良いものではありませぬ、又歯を嚙合せた處では、上の歯列が少し前方になつて下の歯列と出逢ふのが普通でありますが反歯の甚しいのや下顎の骨の小さすぎるのでは、上下の歯列が行違つて出合ふ事ができず、從て物を食べるのに甚しい不都合を感ずる様な例もあります、併し前にも申上た通りこれも或程後迄は手術をして治す事ができるのですから、歯列の惡い方も一度は醫者に御相談になつたら或は美しい歯並に直す事が出來るかも知れませぬ。

歯の色は一寸見ますと眞白な様に考へられますが、西洋の有名な歯科醫の説によりますと實は心持ち黄色若くは青味を帶て居るのが普通で、其證據には入歯をする折に餘り純白な歯を挾むと夫が非常に目立つて口元の美を損する事が少くない相であります、夫で歯の色と申しましても人々により多少の相違がありますので、西洋では夫に應じて義歯の色合に就て大層綿密な研究が積れて居る相であります、歯の美に大切なのは、上に申した様な色合と其外に一様に光澤を持つて居る事であります、而して歯の色澤をよくするには如何しても毎日の手當が大切であります、其手當が行屆きさへすれば色澤も如何なにでも美しく夫こそ眞珠を並べた様になるのも容易な事であります、我國でも鐵漿や五倍子で歯を染めたりなど致しまして、其化粧には古からも少からず注意を惹たものと思はれますが、近來特に其手當に就て注意をする様になりましたのは、一つには歯其物の衛生に氣を附ける様になつたのでもありませうが、又一方では追々肉食の風が盛んになるに從ひ歯の惡くなる事が甚しくなつた故でありませう。

齒を淸潔にするのに最も普通なものは齒磨粉であります、齒磨粉に就ての注意は皆樣も既に十分御承知の事と存じますから別に玆には申上げませぬ、只粉末は極めて滑かで細く、水に混ぜれば悉皆溶けて仕舞ふものでなければなりませぬ、又齒のブラシも、餘り硬くも柔くもなく丁度よい加減のものを選び、之で齒の裏表を横にも縱にも丁寧に磨擦るのです、中には齒の表ばかり丁寧に擦りながら裏の方はとんと磨かぬ方がありますが、恁云ふ方では齒の裏の凹い面に一面に黄い齒じほが積り積りて、更に夫に石灰や何かゞ沈著して終には硬い黄い齒石と云ふものになります、是は只齒の見えを惡しくするのみならず蟲齒や何かの始まりに成り易いものですから時々醫者に就て取除けて貰ふ必要があります、夫から一度使つたブラシは直ぐに百倍の硼酸水で毛の所を十分洗つて能く水を切り、硝子の鑵か何かの内に入れて成るべく日光の當る處に置くのがよろしいのです口の中には樣々の黴菌や汚物がありますから、そう云ふ物の挾つた楊子を濕つた儘で日光にも當らず翌日又其儘で使ふのは極めて危險であります。

齒磨粉に次で廣く用ゐられるのは含嗽劑でありますアメリカあたりでは初め微溫湯で含嗽をし後で再び「リステリン」と云ふ藥でもう一度うがひをする習慣になつて居ります、其他薄い「アルコール」も口中を爽かにし且つ齒を淸潔にする力があります、又「パイローン」と云ふのも口中に防腐の働きをなす許りでなく其外に黄く色附いた齒を白く晒らす働きがあります猶最も廣く行はるゝのは次の液であります。

「ラバンドラ」精	九十五瓦
「サッカリン」	一瓦
「ミラ」丁幾	五瓦
薄荷油	三滴
「オイカリプトス」丁幾	二瓦

此液の十乃至十五滴を大コップに凡そ半杯位の湯に滴らして夫れで含嗽をするのです。

以上に申述べた樣に齒磨や含嗽劑を用ゐて始終齒を

清潔にして居れば、決して蟲齒や何かが起る氣遣はないのであります、但し齒は一寸見た處では如何にも丈夫相に見える物ではありますが、實は案外薄弱なるものでありまして餘り熱い物や冷い物を急に食べたりする時、或は砂糖や澱粉が唾液と一所になつて出來る乳酸と云ふ物が長く作用するには、遂には齒の表側の琺瑯質を壞はして仕舞つて蟲齒となるのであります、蟲齒の痛みは實際に之を經驗しなければ分らぬと申す位であり。又私共の生活力思索力を宿す頭腦と顎骨の中に竝列して居る齒の神經とは極めて近い關係がありますので、從つて蟲齒が其方の氣分や容貌に及ぼす力も是又侮り難いものであります、其外蟲齒があれば食物を十分に消化す事ができず、又蟲齒の爲めに舌が始終摩て傷ができ夫から恐ろしい病氣が始まる樣な事もあります、其他又空洞になつた蟲齒の穴から不潔物が進入して上顎の骨の穴の中に澤山の膿が溜つて、其爲に鼻が惡くなり耳の聞えが惡くなり仕舞には目にまで障りが起る樣な場合もあります、最も多く見るのは下顎に蟲齒があつて其空洞から黴菌が入り込み、其部分が化膿して遂には外の方に破れ、夫迄は豐かに美しくあつた顋に生れも附かぬ傷ができるのであります、而して其齒を拔去らぬ限りは絶えずじくじくと膿を洩すのです、蟲齒が單に痛む許ならば「クレオソート」か「コカイン」とかを塗つて一時の急を凌ぐ事もできますが、其外に前に申した樣な重い病氣となる事が有ますから若し蟲齒ができた時には一日も早く醫者に就て夫を拔くなり塡めるなり適當の手當をなさらなければなりませぬ

中には亦齒には別に異狀がなくても只齒齦が膨れて押すと容易く血液や膿の出る方がありまする、之は齒齦炎と云つて隨分多い病氣であります、之を豫防するには楊子で齒を研く折に齒齦を軟かく下に擦りさげて血行を良くし抵抗を強くすればよいのです、又此病氣がありますと始終口中に熱を持て口が臭くなる患がありますから其時には含嗽劑として次の藥

を用ひます。

「チモール」　七・五グレイン
硼　砂　一五・〇グレイン
水　一〇〇・〇ピント

最後に口から出る吐息の事に就て一言致しませう、素と鼻に何の故障もない限りは平常は口を閉ぢて鼻から呼吸をするのが普通であります、併し話を致します折などは口を開きますので呼吸も勢ひ口でせなければならず、從つて注意を致しませぬと相手の方にまだ吐息を吹き掛ける様な麁粗があります、特に笑ひでもする時には最も此麁粗が有勝の事であります、人の吐息は醫學上から考へても實に注意すべきものであります、特に夫が肺結核患者でゞもありますと其吐息を吹き掛けられると云ふ事は誠に危險な事であります、或人の試驗に肺結核患者の前に三尺隔てゝ一枚の十分消毒した硝子板を置き、暫らく其人を饒舌らせた後で其板に就て黴菌の試驗を致しました處が數百と云ふ結核菌を其板に發見した相であります、それですから病氣のある方の吐息の恐るべき事は勿論でありますが、そうでなくても生溫い吐息を無遠慮に顔に吹き掛けられるのは誠に心持の惡いものであります、昔のお伽話を見ますと日本のでも西洋のでも、お化が出ると定まつた様に生溫い吐息を吹き掛けたとか何んとか云ふ事が書てありますが之を見ても人に吐息を吹きかけられると云ふ事はどの位心持の惡いものかと云ふ事が分ります、特に夫が同時に忌やな臭でもあつたら其不愉快さ加減は如何でありませう、處が此吐息の臭いと申す事は折折見受けるもので、特に自分では氣の附かぬ場合が多う御座いますから、交際場裡にでも御立ちになる方々には取分け御注意をなさる必要があらうと考へます、吐息の臭くなる原因には色々あります、前に申しました肺結核でも臭くなる事がありますが、其外肺に膿を持つ病氣にも堪へられぬ様な臭氣を發するのがあります、其外胃や腸の惡い時、口中や齒の掃除の行屆かぬ時でも起ります、又鼻から來るのに

は、鼻の横で齒齦の上の腔洞に膿が溜る病氣、鼻の奥の咽喉の處が腫れて鼻咽喉の換氣の惡くなる病氣並に眞の臭鼻症と申すのからも參ります、此内でも胃腸の惡いのや、口中の掃除の行屆かぬのや、乃至は臭鼻症によつて起るのが一番多い樣であります、胃腸の惡いのや口中の不潔なのは、其原因となつて居る病氣の手當をなし又口中を清潔にさえすればよいが、臭氣が甚しい上に誠に治り難いのは臭鼻症に基くものであります、之が原因は未だ十分に分りませぬが、鼻の粘膜が一體に衰弱して始終忌な臭氣を發し、夫が吸氣と一所に吸込まれて後で改めて口から吐き出されるのであります、其上鼻の內には結痂のできて夫を取除ければ又新らしいのができ誠に五月蠅ものであります、而して此病氣は男子よりも婦人に多く、特に十四五歳から三十歳位と云ふ交際場裡の花とも申すべき誠に大切な御年頃にあるもので三十を越せば追々獨りで治癒るのが普通であります前にも申上た通り何分まだ其原因が分らぬのですから根治すると云ふ事は難しいが根氣よく次の手當を行へば交際場裡に出てもさし閊へない位には其臭氣を防ぐ事ができます、一番手輕いのは一乃至二%の食鹽水、又は曹達水、其他硼砂又は「リゾール」の溶液で、一日三回又は五回許り十分丁寧に鼻腔を洗ふのです、普通に用ゆるのは次の處方です。

重曹	一〇瓦
硼砂	二〇瓦
水	一〇〇瓦

又薄荷水は臭鼻症に特有の效力がある事がありますから上の處方に猶之を少し許り滴加するのもよろしいと存じます、又其洗ひ方は此等の液を護謨の管で鼻の中に注ぎ込んで口から吐き出すか、或は鼻を液の內に漬けて鼻で吸込む樣にしてもよろしい、併し此際其液が咽喉から回つて耳を傷めぬ樣に極く靜かに吸上げる樣にしなければなりませぬ、又同時に結痂ができて痛みが餘り激しい樣な時には螺旋狀に卷た針金に脫脂綿を捲き附け之をそつと鼻腔に押入れ

螺旋を逆に回しながら針金を拔き取り、綿球は二三時間其儘にして置くのです、すると後には厚い結痂が濕つた綿に附著て出て參ります其際綿には藥も何も附けなくてもよろしいのです、そして其後をば上に擧げた液で洗滌するのであります。

猶此病に對しては上の法の外に鼻の粘膜を强い電氣で熾灼く樣な方法もありますが其成績は餘り確かではない相であります。

育兒

夜の小兒

根津元可

小兒は大人よりも多くの睡眠時間を要することは勿論である。學校に行く兒童でも八時間か九時間の睡眠は必要である、故に朝六時に起きるとすれば遲くとも夜九時までには寢に就かしめなければならぬ。然るに大都會、就中東京の兒童は往々十時過までも起きて居るのき少なくない、これは全く親の惡いのである。狹い家で、夜分に來客などのある時に、子供を外に追出す如きは止むを得ざる窮狀として恕すべき點もあるが、寄席や活動寫眞や劇場などに小兒を誘ひ、大人と共に夜の十一時、十二時頃までも烈しい刺戟を與へることは、小兒の身心を害すること非常のものである、これは勿論無敎育、無責任の親の事ではあるが、割合にその害を看過して居る人が多いやうである。藝人竝に觀客の下劣な言語や所作を見聞せしむることは決して望ましいことでない、又單に睡眠時間を奪ふことの宜しくないのみならず、睡いものに種々の刺戟を與へ、興奮せしめて睡眠を妨げて無理に起しで置くのである、その神經に害あることは敢て說明を俟たなくとも推察することが出來やうと思ふ。況や衆人群居の所で、換氣不良

煙草の烟渦卷く中に長時間窮屈にして、而かも專ら大人の興味の爲に適せられるものを見たり聞いたりして居る小兒には、これ程無益有害なことは無い、呼吸器の爲に甚良くない、從つて血液を惡くすることは勿論である、要するに小兒の精神並に身體全體に對して甚しい不良の感作を及ぼすものである。日曜日の夜に、愚なる親の爲に斯樣な惡教育を授けられたる兒童は月曜日に於ける學校の成績の良くないことは覿面である。それはその筈である、休養すべき爲の日曜日を休養に用ひず、大人と同樣に烈しい刺戟を與へられて學校以上に氣を張り詰め、過勞の狀態に陷り、眠不定となるから、翌日は學校に於て課業を學び十分それに注意を向けることは困難になる。この悲しむべき狀態は獨り我邦のみならず外國に於ても往々認めらるゝ所と見えて、屢々新聞雜誌に訴へられる、數月前の獨逸新聞にもこれに類したことが論ぜられてあつたが、伯林では近年料理屋のやうな所に小兒を連れて行く惡習慣が段々多くなつて來たと云ふて居る、これは固より親達も好む所ではないが、夫婦連で外に遊びに出掛けるのに、子供ばかり家に置いて行くわけにはゆかぬ、不安心である、それで一緒に連れて行て大人の御接伴をさせることになり、親達が歸らうと思ふまでは、前に述べたやうな衞生上不良の場所に居らしめることゝなる小兒の爲には甚だ有害なことである、その爲に月曜日には生徒の缺席が多い、その成績も良くない、これは大都會のみならず、地方の小學校でもこの形跡が見えると云ふことである。尙ほ獨逸邊では往々小兒に「アルコール」分を含むで居る飲物を與へて平氣で居るものもある。中には、小兒にも酒を飲ませて能く眠つて良いなどとさへ考へて居るものが往々あるやうである。我邦では幸に小兒に酒類を與へるやうな風はないが、寄席、芝居、料理屋等に行けば自然大人と共に飲食をするので胃を惡くする、殊に夜は宜しくない。前に述べた如く斯う云ふ弊害は漸次我邦に於ても多くなつて來るであらうと思はれる、

現に東京の兒童は既に大分この災害に罹りつゝあるを認める、小兒の胃病、呼吸器病などは、不健康な危險な寄席や料理屋などに行つたことが原因になつて居ることが頗る多い、清潔な空氣と十分の睡眠とは小兒に取ては最も重要なる衞生上の要求であつて小兒の衞生は主としてこの方針に向つて努められねばならぬ、大都會の兒童も出來得るだけこの要求を滿たされるやうに、總てこれを害することは勗めて避けなければならぬ。親たるものは小兒の健康の爲には自分達の快樂をも棄つべきは當然のことである寄席、芝居、料理屋等に於て見聞することは、道德上の危險が多い、殊に小兒には忌むべきことであるこれ亦夜の遊興の兒童に害ありとする特別の理由である、兒を有つ親は、その爲に犧牲を捧げる覺悟がなければならぬ。

小兒の呼吸器病と其の手當（二）

醫學士　宇都野研

小兒期殊に其の初期には、胃腸の病氣でも、呼吸器の病氣でも、其全體に亙つて發病することが多い、例へば胃腸病に就ていへば、大人の樣に單に胃加答兒とか、腸加答兒とかいふ風に、胃や腸の一方のみが惡くなるといふのではなく、腸の症狀も胃の症狀も一緒に顯はれることが多いのであるから、氣管枝加答兒といふても、呼吸器の他の部分、例へば鼻腔であるとか咽頭であるとかにも同時に加答兒のある場合が多いから、豫め一寸お斷りしておきます。

さて氣管枝加答兒といふのは、前にお話した氣管炎よりも一歩進んで、樹木の譬ていふと枝の部分に變化の起つた場合である。

單純な氣管枝加答兒といふものは、さして恐ろしいものではない、然らば如何なる場合に警戒を要する

かといふに、

一、哺乳兒の初期、例へば生後二三ヶ月の小兒の氣管枝加答兒は、肺炎の積りで取扱ふがよい。

二、體質の悪い小兒の氣管枝加答兒は進み易く直り悪い。

三、痲疹の經過中に起つた氣管枝加答兒は、肺炎になりやすい。

四、百日咳の經過中に起つた氣管枝加答兒も同様である、且つ再發し易い傾向がある。

氣管枝加答兒の症狀は御存じの通り咳嗽と熱とが主である、咳嗽は最初濃き分泌物のある間は強く、且つうるさく出るものであるけれども、分泌物が薄くなると漸々輕易になる。

小兒が氣管枝加答兒に侵された場合に、母親はどういふ點に注意しなくてはならぬかと云ふに。

一、熱の高いのは病氣の輕からぬことを示すものであるけれども、熱だけでは決して病氣の輕重を定むることは出來ない、弱い小兒とか、又は身體の衰弱して居る様な場合であると、病氣が重くても熱の極めて低いこと、又は殆んど無熱の様な場合もある、

二、呼吸數の少ないのは概して輕く、呼吸數の多いのは概して重い、後の場合には細き枝に當る部分卽ち毛細氣管まで病氣が進んだので、斯る狀態を毛細氣管枝炎といふ、この場合には單に呼吸の數が多いのみならず、呼吸が困難になつて鼻翼の働くのみがみえますこれは憂ふべき症狀です。

三、口唇の色などの悪くなるのは大變心配なことです。

四、元氣がなくなつたり無慾狀態するのは重態である。

五、痰の切れるのはよく、切れぬのは悪い、病氣の輕重についての注意は略以上申上た位であるが、哺乳兒などであると、呼吸器病の經過中に往々胃腸の症狀も起ることがあるから、榮養の方面にも十分注意しなくてはならぬ、(治療のことは次號)。

玩具に就て（承前）

（京都商品陳列所講演會にかて）

高島平三郎

夫から玩具として子供が人形を玩びます心の働きに就いて少しく御話して見ますと、一體子供が人形に對して大變興味を有つのはどう云ふ譯であるかと云ふと、總て人は人に就いて最も興味を有つものです。人は人が一番氣になるのです、外を歩いても犬を眺めるとか、牛を見て居るとかいふ人は少なく、大概は人を見るものです。併し犬で儲けをしやうと云ふ人は犬に注意し、牛を買はうとする人は、途中で牛に逢へば振返つて見るでせうが、一般には人は人に對して最も多くの興味を有するものであります。是れは種々の點から他人と關係を絶つ事の出來ぬ爲めでありませう。かういふ譯で子供を人に對して最も興味を有つものであります。親とか兄弟とか、親族とか、朋友とか、すべて活きた人に對して興味を起しますそれですからそれを代表して造つた人形に興味を有つのは偶然ではありません、子供が樂書するに何を多く書くかと云ふと、人の面を最も多く書くものです。昔からある「へのへのもへじ」などいふ事もそれです。かく子供は自然の本能として人形を喜ぶ風がありますから、その幼時は立派な人形でなくとも人の形をしたものであれば滿足して持つて遊ぶのです。それからもう一つは眞似をする本能から人形を愛するのです。全體人形を弄ぶ事に限らず、總ての遊び事は成人の眞似から來ることが多いのです。例へば姉さんやお母さんが少さな子供を世話をし、その著物を縫ふとその姉たる子供も自然の眞似をする本能から、さう云ふ事をして見たくなるのです。然るに赤ん坊は抱けないから、……若しも抱いて落しでもすれば困るから、幼い子供には始めから手を着けさせません。……そこでその代りに人形を持ち扱ふて眞似をするのであります。

夫からもう一つは、子供は七つ八つから十歳位にな

ると受身にばかりなつて居ません。自分で他を支配して見たい心が起つて來るものです。段々自分の身體も強くなり運動も自由になり、自己といふ考も進むから、一々他の指圖を受けて云はれる儘にして、居らず、自分の思ふやうにして見たいと云ふ心が起るのです　そこで七、八歳から十歳位までは非常に我儘になるのです。其頃の子供が思ふやうにしてよいものは何かと云ふと、犬だとか、猫だとか、雛だとかいふやうなものです　是等は思ふやうになるから頻に之れに接近して苛めて見たり、又は可愛がつて見たり、勝手にするものです。之と同じく人形なれば痛がりもせず泣きもせぬ故、恰度彼等が取扱ふに宜いのです。そこで人形を自分の支配の下に於いて、自分が全力を以て勝手に賞罰を施し、大人の子供にするやうなことをするのです。女の子は或る人形が言ふことをきかぬと云ふて打つたり、或は好い人形だからと云ふて特別に綺麗にしてやつたり、好きな菓子をやつたりするものです。つまり自分が母や姉からせられることを、自分以下のものに持つて行くのです。以上眞似をすること、自分の權力の下に支配して見たいと云ふこと、自然に人に興味を持つと云ふこと等から、子供が人形を可愛がるといふことが起つて來るのです。

然らば子供はどの位の年から人形を可愛がるやうになつて、どの位の時まで續くものであらうか、可愛がる有樣や玩ぶ人形の種類は何時も同じであるが、時代によつて變つて來るか、と云ふやうなことを調べて見ますと、色々と面白いことがあります、是は確かに諸君が人形より玩具なりを造つて供給なさる御參考になると思ひます。人形を可愛がつて弄ぶ時は二つ位から始ります。二つ位になつて來るともうチヨ〱歩きます。さうして外物も分つて來て、盛に眞似をするやうになります。そこで姉さん達が人形を有つて居ると、自分も之を有つのです。それ故其頃は確かりした理由も意味もなく、唯眞似から人形を持て遊ぶといふことが起るのです。さうして

凡そ何年位まで之を喜ぶ傾向が續くかと云ひますと十四歳位まで續くものです。即ち小學校の時代が人形を玩ぶ時代です。それから以上になつても人形を弄ぶ人は幾等もあります。男でも女でも諸君の中にも人形を愛玩なさる方もありませうが、それは子供が玩具として人形を玩ぶのとは、動機が違ひます。子供が玩具とするのは大抵前に述べた二つ頃から始まつて十四、五で終るのであります。二つ頃から四つ五つ頃までの間に玩ぶ人形は、何物でも唯人の形と想像が出來れば宜しいのであります。それ故さう云ふ幼い子供に人形を供給するには、餘り精巧な物を與へるのは愚なることであります。如何に粗雜なものがあつても是が人であるといふことが分かれば宜いのであります。此時代の子供は座蒲團を卷いて脊負はせてやると喜んで遊びます、丁度此頃の子供に適した人形は東北でボコと云ふ丸い球の下に棒をつけて顔が畫いてある物の類です、幼な子はかやうな簡單な人形を喜んで持つて遊びます、又猿を拵へてやると人形の代りにそれを脊負つて遊びます。幼兒には精巧の物を持たせても簡單な物を與へても區別がないのです、それは何故であるかと云ふに、此時の子供は實際の物と、唯想像で頭の中に畫くものとの區別がないのです。即ち是は實際にあり得ることであるか、有り得ぬことであるかの區別が出來ぬのであります。猿がものを言ふたと云ふたも少しも疑ひません蒲團でも人形だと云へば、それで人形にしてしまふのであります。それですから幼少いものを遊ばせる爲めには、人形は唯大體が人に似て居れば宜い、顔なり、胴なり、手なりがあらまし分れば宜いのであります、さうしてのその材料は丈夫にして危くない物で、舐めても直ぐに消毒してやることが出來、且つ怪我をすることのないやうなものでなければ宜いのです。小さい子供に與へる人形にはさう云ふ注意をする必要があります。

夫から幼稚園の終り頃より小學校に行く時代になりますと心の働きが前とは變つて來まして、何でも實

際のものでなければならぬ樣になります。前にはお咄嘶を聞いて其儘信仰して居つたのですが、此年頃になりますとさうは行きませぬ。實際の經驗が多くなつて來て居ますから實際の事と空想とが分れて來ます。さうなつて來ると人形でも成るたけ眞の人の形をしたものでなければ滿足せず赤坊のやうな大きさで實際に近いものを喜ぶやうになります　此種の人形には五官の揃つて居るのは勿論、胸を推すと鳴くと云ふやうに努めて實物のやうに出來たものが適します。西洋の人形のやうな精巧のものを可愛がるのは此頃であります。此頃の人形を愛する情態は、さつき御話したやうに實際の子供と少しも違はぬ意味で愛するのです。それは誰でも女の子を御調べになると分りますが、女の子は持つてをる人形に名を付けて是はお花であるとか、お富であるとか云つて別の人格と見做すのです。又是は一番良い人形だから奥様、是は醜いから下女であるとか召使であるとか云ふやうに區別する事もあります、又食物を與へたり寢かしたり病氣の世話をしたり行水を使はせてどろ／＼にしてしまつて叱られたりするやうなこともあります。或は旅行をする時柳行李の辨當箱の中に人形の著物を入れて、それを自分等の持つて行く行李の代りにするのもあります。即ち柳で拵へてある飯行李と同じ形をして居ますから人形の旅行する場合に之を衣裳行李に代用するのです。又人形の誕生祝をすることもあり、お母さんが自分の躾をする如く、人形に對してお前は云ふことを肯かぬでいけぬと云うて人形を叱ることもあります。或は又自分が衞生のことに注意されると之れを人形に當て嵌めて、著物を取替へてやらなければいけぬとか、髮をとかしてやらなければならぬとか、澤山食べさせてはならぬとか云ふやうに注意したり、又お化粧をしてやつたり、紅をさしてやつたりすることもあります。殊に面白いのは此人形は心が善いとか意地が惡るいとか、柔順であるとか云ふやうに人形の性格を分けることです。又家族を造つてお母さんであ

るとか、子供であるとか云ふ風にしたり、或は人に敎育を施すやうに學校に行くのであると云つて、人形を列べて學校事をすることもあります。或は又婚禮をすると云ふこともありお祭に聘ばれて行くやうなこともあります。さうして又人形が壞れると葬式を出すと云ふやうなことをする場合もあります。總べて冠婚葬祭人事百般のことを人形によつて習つて行くのです。斯ふ云うことを考へますと人形を造つたり、賣り出したりするにもなか／＼趣味があります。例へば私の造つた人形がどう云ふ所に行つて、どう云ふ子供に持たれてどう云ふ風になるであらうかと云ふことを考へて見ると、同じ商賣をするにも趣味が生じて來ます。總ての事にかゝる趣味は必要であります。商賣をするのは唯金を儲ける爲めばかりではない、非常に面白い趣味があるものです。此趣味が加はつて來ると商賣が益々面白くなります。詰り金を儲けながら修養が出來るわけです。すべて人形を造る人も賣る人も自分の子供によつて考へて見ると面白いものです。我が家の子供が人形を持つ時に壞れて困るなどは、他人の子供もさうであるから、氣を付けてよく造つてやるがよいのです。さうすれば彼處の人形は、丈夫でよいとか、好く出來てをつて危險くなくてよいとか云ふやうに名譽と信用とを得て、益々よく賣れるやうなことであります。一般に子供は人形と親しむものであります故、之によつて種々の事を教へるのは適當の事であります。學校などで唯空に話すよりも、人形による敎育は有效であります。卽ち女の子供はまだ世の中に出ぬ内に、人形に由つて種々の行儀作法を習ふことが出來るのであります。そこで此時代に習へる人形は概して言ふと前にも述べた如く餘り少さくなく且つ餘り粗雜でなく實物に近いのがよいのです。十四五歲になると嗜好がすつかり違つて來ます。卽ち此頃になると小さな精巧のものを好むやうになります。私自らも非常に人形が好きで机の上には常に人形を飾つて居りますが、概して青年以上の者が人

形を好むのは、美術的の愛であります。前のやうに人形を活きて居る人と想像して旅行に連れて行くと云ふやうな意味ではありません。女が十七八にもなつて大きな人形を抱いて遊んで居るやうな者は迚も嫁には行かれません。東京なら巣鴨にでも連れて行かなければならぬでせう。兎に角十七八歳以上の女には大きい人形よりは小さいのを喜ぶ傾向があります。すべて小さいと云ふこと丶、愛らしい、美しいと云ふこと丶は伴つて居るものです。餘り大きなものには愛らしい、美しいと云ふこと丶は兩立せぬ場合が多いものです　假令美しいにしても一種凄いやうな美さで之を壯美と云ひまして優美とは性質が違ひます。優美と云ふと多くは少さいと云ふこと丶伴つて居ますが、景色などでも非常に廣大なるものは一種壯快の感に打たれて、凄いやうな情が含まれて居ます。人形の美はその様なものではありません。矢張り優美の感情を起すものであります。そこでそれには小さなものが必要になつて來ます。其外特殊の場合例へば子供の無いと云ふやうな時には三十になつても、或は四十五十になつても人形を眞の子供のやうに扱ふ人もあります　併しこれは一般と云ふことは出來ません、

女の子が人形を愛する心の情態に取つて一の面白い例は我同盟國の先帝であらせられたヴイクトリヤ陛下が人形を愛せられた事です、是れは歴史にも有名なことであつて、其數は百三十も御持ちになつて居たさうです、さうして始終御自身で世話をなされました。それは着物を着せ換へてやることから、掃除をしてやることから、綺麗に保つて行くことから皆御世話をなされたのです。さうして是等の人形を御側に仕へるところに大臣其他の人に擬して是は誰々と云ふ風にして愛玩されました、陛下のか丶る御心状は十四五のお歳まで續いたさうであります。かく一般の女子が十四五歳までは熱心に人形を愛するにも拘はらず何故其の以後はそれを愛せぬやうになるだらうかと云ふことを色々と質問して調べて見ます

と、それにはその理由があります。第一には人形よりも外の物を可愛がるやうになるから第二は別段の理由はない。餘り長く人形を持つて居るのは宜くないから。第三には忙はしくなつて人形を持つてる時がないから、第四には恥かしい。第五には人形よりも本當の子供の方が可愛くなる　第六には壞れたから愛さなくなつたと云ふやうな無邪氣なのがあります。それから第七にはどう云ふ理由かわからないが昔ほど人形が面白くなくなつたと云ふのもあります。是は正直な答でせう。さう云ふ風に年を取つて人形に對する態度が變つた女でも、私がさつき申したやうな小さなものであつて美術的に美しく出來て居る物などは喜んで愛玩するでせう。それは前とは違つた意味であります。諸君が人形を造り或は賣るにこれはどういふ人に向くかと云ふことを注意なさる場合にも、以上の如き精神の變化して來る情態を知つて居らるゝと面白い參考になることであらうと思ひます。

（以下次號）

家庭衛生

結核は不治の病なりや

結核、特に肺結核は實に人類の大患でありまして、今日世界到る處に蔓延し、而かも最も執拗に人間を脅かし、人間を苦しめ、年々幾萬の生命を奪ふて居るのであります。それで今日では何人もその恐るべきことを知つて居りますが、我國の人々は比較的その豫防を等閑に附して居る、それでは結核は防ぐことの出來ぬものかと云へば決してさうではありませぬ、歐羅巴文明諸國では有ゆる手段を廻らして結核の豫防撲滅に努める結果、近年に至て著々としてその效果が顯はれて參りました。尤もこれは單に公衆衛生の方のみ嚴重にしても效力が少ない、各個人も結核の如何なる病氣であるかと云ふことを十分承知

して、自個の健康の爲めに、國家の爲に、廣く人類の爲にこの惡疾を退治する考でなければなりませぬ。結核の傳播し易く、治し難く、死亡の多いのは種々の理由もありませうが、結核に罹つても久しい間打棄て置く、或は自ら不治の病と諦らめて自暴自棄するものが多いと云ふことも確かに、周圍に傳播する機會を多くし又自ら死を招く有力の原因であります。結核は豫防することが出來るのみならず、一旦罹つても、早く適當の攝生治療を施せば治癒することの出來る病氣である、これは病理解剖上屢々證明さるゝ事實たるのみならず、實際治癒した例は幾らもあるのであります。故に結核の診斷を受けたからと云ふても決して失望落膽すべきではない、宜しく出來るだけ適當の養生法を守り、相當の治療を受けて、早く治るやうに心掛けなければなりません。縱令不幸にして結核に罹ればとて、必しも長壽を保てぬ譯のものでないと云ふことは、今回日本結核豫防協會から大正博覽會に出品された中の結核治癒者の略歴を見てもお分かりになります、今同會の許を得て左にこれを轉載して參考に供します。

獨逸文豪故ゲーテ先生

ゲーテ先生が、内外古今を通じて文學上の偉人たることは何人も熟知する所です。先生十八歳の時ライプチに在學中肺結核に罹り、夥しき喀血をした程でしたが、其後攝養宜しきを得た爲に、全く平癒して遂に百世の偉業を遺し、八十三歳の長壽を保ち、千八百三十二年(我天保三年)以て登仙されました。

貴族院議員江原素六先生

現代に於ける先生の高き名望は今更茲に申すまでもありません。先生は四十歳の頃より猛烈なる肺病に罹られましたが、識見高く信念堅固な先生は、早くも該病の療養には空氣と日光の利用にあることを覺られ、專ら屋外攝養を勉められ遂に回春の好果を得られました。本年七十三歳の高齡にありながら、社會のため海の内外に馳驅せられつゝある努力の絶倫なのには何人も驚く所であります。

故栗本鋤雲先生

先生は九歳の頃より肺病に罹られ、二十五歳の時富士登山に際して更に大に喀血した程でありましたが、平常身を持することが頗る嚴に、さしも激しかつた病魔をも擊退して、

健全無比の身となり、四十六歳の時外國奉行として佛國に特派され、五十二歳から報知新聞社に主筆となり、五十七歳帝國學士會員となり一世の碩學と稱へられた、明治三十年七十六歳の壽を以て歿せられました。

故下岡蓮杖翁

我國寫眞師の元祖にして、又第七番目の基督信者と稱された翁は、十七歳にして畫家の門生たりし時重き肺病に襲はれ、自ら其治し難きを覺悟し、幕府の典醫塙氏に一身を委ねて、耐久不撓治療に專らなること十年、遂に全治して、九十二歳と云ふ世にも稀なる長壽を保ち、本年本月三日(大正三年三月)を以て歿せられました。九段遊就館の函館戰爭と臺灣征討の油繪とは長しへに翁が遒勁なる筆の跡を遺されたものです。

製藥學士八木長恭君

君は和歌山縣立醫學校教員、仙臺第二高等中學校教授、福岡縣病院藥劑部長、東京市衛生試驗所技師等歴任された溫厚篤學の士です。三十七歳の頃より肺患に罹られ、一時頗る重體でありましたが、攝生效を奏して、昨年まで終始其職に精勤され、本年六十五歳にして公職を辭し、郷里前橋に退隱して居られます。

君は素より科學者で特に信仰はないけれども、平素虚心坦懷、死といふものを怖れない方です。

祠官瀬川雅亮君

君は二十二歳陸軍幼年學校在學中肺病に罹り、血を喀くこと幾回なるを知らず、病軀劇務に堪えざるを悟られて、祠官の家に入り、身を塵俗の外に置き、攝養すること七年、病魔は遂に全く影を歿して、健全の身となり、現に本年六十歳です。

秀英舍長故佐久間貞一君

我國印刷業の巨擘秀英舍長たる君は、戊辰役に彰義隊に入り、明治五年に大草高民を率ひて、北海道沸川に移住し、同年九月に秀英舍を創設したる等各方面の社會事業に貢獻されたる事、宛然立志編中の人たりし事は人の知る所です。君は明治九年肺患に罹られたが、明治三十一年十一月五十三歳を以て物故せらるゝまで十三年の間目覺ましき奮闘を續けられました。

米國ヘーワアド氏

米國に一奇人があります。此人去る年より肺病に罹りましたが、該病は空氣と日光とを完全に利用すれば必ず癒ることの信念よりマリーランド、ホレストグレンの近郊に程近き林間を選み、樹上高き所に茅屋を設け、宛も鳥が梢に巣を懸けた如くにして、此處を住居として飽くまで空氣と日光を食つて居る、それがため老年になるも矍鑠たるものだといふ事です。

製墨師鈴木梅仙君

君は日本墨の研究家を以て名高き方です、五十三歳の時肺病に襲はれ、三年間家事も商業も打棄て病院に入り、専ら攝養されましたが、其效空しからず遂に全治されました。本年七十九歳の高齢を以て、現に健在されます、君は性格風流にして詩書に巧みです。



雜部

○御大喪儀と陸軍衛生部の救護所

來る二十四日御大葬儀當日陸軍衛生部に於ては青山陸軍大學校構內、宮益阪下澁谷第一小學校內、上澁谷字豐澤に各一箇所及び代々木練兵場內二箇所に救護所を設くる筈。

○發疹「チブス」豫防心得

目下發疹「チブス」の流行につき內務省衛生局より左の豫防心得を配布して世人の注意を促せり。

(第一)　發疹「チフス」とはどんな病氣か

發疹「チフス」と云ふ病氣は非常に傳染力の強い發疹性熱病で不潔な家屋に多人數棲ふ場所、即ち木賃宿、簇合所、監獄、工場、寄宿舍、貧民部落等によく流行す、又食物の不足、境遇の不良なる時、例へば戰爭や饑饉の時にも、流行するのであります

其症候の概略を申しますと、身體に病毒が入つてから一二週間は潜伏てゐますが、其中突然に惡寒がして、程なく四十度以上の高熱が出て、頭痛が強く、眩暈がして、全身は倦怠し、腰背部や四肢の諸關節に疼痛を覺え、到底起きてゐられず病褥に就くやうになり、神經朦朧となつて譫語を云ひ、顏面は潮紅浮腫状に見へ、眼球結膜は充血し、體溫は降らず、三四日經過中に留針頭大の薔薇様發疹が胸部から出初めて全身へ擴るのであります

此の病氣に罹れば病症により差違あれど百人中二十人位は死にます、幸に治癒る者は發病後十二三日經つと熱が次第に降り、漸漸恢復してまゐります

(第二)　發疹「チフス」はどうして傳染するか

此の病氣の病原體は未だ決定しませんが、血液中に病芽がありまして、それで虱や(蚤)などが患者の病芽のある血を吸ふた後に他の健康者を螫して病毒を傳染します、又患者の咳嗽の泡沫を吸込で罹り、或は患者に近付き、看護などし患者に接觸して傳染す、又患者の使用したもの例へば衣類、寢具類、家具、雜用品等によつても傳染するのであります。

(第三)　發疹「チフス」に罹らないやうにはどうして豫防するか。

(一) 發疹「チフス」の豫防法は、住居を清潔に掃除し、窓は明け放して空氣の流通をよくし、日光の射入る樣につとめ、又食物を改善し、虱や(蚤)を剿滅するよう注意するのが第一であります。

(二) 發疹「チフス」は非常に傳染力が激しいから、此病が流行する時には感冒の樣でも、あまり熱も高く、譫語が出るほどなれば。早く醫師の診察を受け、若し此病氣と確定すれば病院に入れるのが宜しいのであります、此病は恐しい病氣なれど早く療治すれば治り易いのであります。

(三) 患者の居室や、其中の家具類はよく掃除し消毒して、莚や敷物は消毒の上日光に曝露し、患者の衣類、寢具類、雜用品等は初めに熱湯で煮るか、或は他の方法で消毒をして後に洗濯しなければなりません、價値の無い品物は燒却なさい、患者の口をすゝいだ水、痰唾の類も消毒せねばなりません。

(四) 發疹「チフス」の患者や其發生した家にはなるべく接近しないようになさい、已むを得ず患者に接近した場合には歸つて直ぐ衣類を全部着換へ、日光によく曝しなさい、看護する時には必ず看護服を着てなるべく呼吸器をかけ、又患者と同室で寢ない樣にさない。

(五) 發疹「チフス」の流行時には、二三日で治る輕症のものが多數ありまして、夫れが他人に傳染すれば重くなりますから輕いものにも注意せねばなりません。

○都下の傳染病狀況

發疹「チフス」は稍々衰へたるものゝ如く本月に入りては一日には四十七名、二日三十三名、三日四十六名、四日四十二名、五日三十八名、六日三十九名、七日二十八名、八日三十九名、九日三十名、十日三十六名、十一日二十七名、十二日二十二名の新患者發生し、初發以來同日迄の累計三千四百八十四名なり。「ペスト」は去る十三日迄の累計十二名にて内九名死亡せり。痘瘡は本月九日上板橋に一名の新患者を發生し、累計三十三名となれり。

○關東都督府の産婆試驗

關東都督府告示第三十八、四十一號を以て産婆名簿に登錄したる二十七名の氏名を發表し、又同告示第三十九號を以て來る十月五日より旅順に於て産婆試驗を擧行するにつき同八月三十一日迄に出願すべき旨告示せり。

○東京府の産婆看護婦試驗

去月十一、十二の兩日東京府廳内に擧行されたる産婆學說試驗の受驗者六百七十八名中、及第百四十五名、不合格五百十七名、缺席十六名にて、實地試

驗は同月十四日より擧行、本月十四日終了、同二十日より二十二日迄三日看護婦試驗擧行されたり。

○子守教育の調査

德島縣にては、學齡兒童就學督勵に關する學校の施設及び規程竝にその效果を知らむが爲に、過般文部省より奬勵金を交付されたる子守教育、工女教育、貧兒教育、徒弟教育の十二團體に對し其經費、維持の方法、規程及教育方法の大略、生徒の男女別、年齡別數等を問合せたるに回答ありしものゝ狀況左の如し。

自敬子守學校　は收容生徒男六女二十名にして、一ヶ年百七十八圓にて內務省の助成金校主負擔にて經營、每日二時間授業(所在地群馬縣前橋市天川原松竹院內)

樹德子守學校　女子十年より十七年まで九十七名の生徒あり、一ヶ年三百十五圓を要し高崎市の補助基本金利子にて維持(群馬縣高崎市赤松町三十番地)

京都子守學校　社團法人にして明德學園と云ふ生徒十歲より十五歲まで五十七名あり、一ヶ年七百十四圓七十錢にして下付金、社團法人社員入金、基本金利子特別寄附金にて維持(京都市上京區仁王門通り新高倉東入)

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁 東伏見宮妃周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 男爵夫人 濱尾作子

（いろは順）

幹事 鳩山春子
同 岡田徳子
同 山木多穂子
同 松平芳子
評議員 石川貞子
同 濱田拾子
同 服部繁子
同 西外子
同 緒方悦子
同 小川孝子
同 片山鶴子
同 丹波貞子
同 田村きよ子
同 男爵夫人 南部限子
同 山口貞子
同 古市幸子
同 岸澄子
同 三宅藤子
同 宮下咲子

同 羽田三緒子
同 高木録子
同 三浦敬子
同 岩下ゆか子
同 長谷川仲子
同 仁禮壽賀子
同 土肥多越子
同 岡山とし子
同 男爵夫人 加藤鈴子
同 吉武輝枝子
同 高橋孝子
同 鵜原誠子
同 中濱芳子
同 子爵夫人 松井正子
同 伯爵夫人 阿部篤子
同 菊池紫子
同 宮本樂子
同 守屋千代子

婦人衛生雜誌代價及廣告料

代價

一册 定價金貳拾錢 郵稅壹錢
三册（三ヶ月分） 前金郵稅共 金四拾五錢
十二册（一ヶ年分） 前金郵稅共 金壹圓八拾錢

廣告料

一頁六十二行 一行二十三字
壹頁 金五圓 半頁 金貳圓五拾錢
○特別廣告 壹頁金拾圓 半頁金五圓
○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢

規定

○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ヶ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ
○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ
○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

大正三年五月二十二日印刷
大正三年五月二十五日發行

編輯兼發行者 東京市本郷區根津西須賀町九番地 莊司秋次郎
印刷者 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 田中捨藏
印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 杏林舍

發行所 東京市麹町區富士見町二丁目三十二番地 私立大日本婦人衛生會事務所

賣捌所
東京市本郷區龍岡町 吐鳳堂
同市銀座四丁目 東海堂
同市京橋區鈴屋町 良明堂
同市本郷區本富士町 明文館
同市同區春木町 南江堂支店
京都市寺町二條南入 若林茂一
東京市日本橋區吳服町 北隆
同市神田區表神保町 東京
同市本郷區本富士町 盛春
名古屋市榮町六丁目 丸善書

絶對的無害なる齒牙の美白料

家庭用としてのオキシフル

本品は當會社製造の三％過酸化水素水にして十容量の有力酸素を放出す

●**オキシフル**は理想的の齒牙美白料にして兼て口臭を去り口中を清潔にし病原となるべき總ての禍を除くに無類の逸品なり之其放出する酸素によるものなれば絶對に齒牙を損傷することなく又無害にして强力なる防腐消毒劑なり

用法、齒を白くなすには本品を其儘或は水を以て約二倍量に稀釋したるものを楊枝に浸し常法の如く齒を磨き後清水にて能く含嗽す只單に口腔疾患其他の含嗽料となすには約十倍量に稀釋したるものを用ふ。



●**オキシフル**は創傷及毒蟲に刺傷されし場合の應急藥として又化膿ある小なる腫物等の消毒に對して有用なり

處置法、局部を本品にて洗ひ若くは本品を以て濕せる脱脂綿にて能く拭ひ爭で乾燥せる脱脂綿を以て殘留せる泡沫を除き後又本品を以て濕したるガーゼを局部に置き其上を油紙にて被ひ繃帶を施すべし

●**オキシフル**は毛、絹、羽毛、象牙、骨、レース、カーテン、スポンヂ等を漂白し又果汁葡萄酒等による衣服の汚點を除去す

用法、前者なるときは本品に之等を浸漬し後其儘日光に曝露して漂白す、後者なる時は先づ其部分を本品にて濕し次で此上にアムモニア水を注ぎ然る後清水にて之を洗除す

●**オキシフル**は水にて稀釋し之を噴霧すれば病室及居室等の空氣を清淨ならしむ之れ自然に酸素を放出すればなり

定價 四瓦入 金四拾錢

東京市日本橋區室町三丁目

三共株式會社

◀◀◀郵便振替貯金口座東京参貳五番▶▶▶